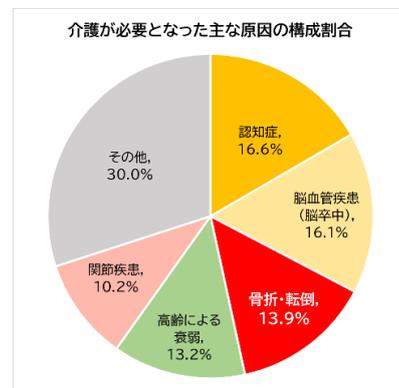


知られざる「連鎖する骨折」、認知や備えの意識は低い結果に

国民の 9 割が「骨粗鬆症」認知も、「ドミノ骨折」は 3 割未満にとどまる
検査未受診は 7 割にのぼり、4 人に 1 人が「調べる必要がない」と回答

医療、スポーツ、ウェルネスの分野で人々の身体活動を支援する日本シグマックス株式会社(本社:東京都新宿区 代表取締役社長:鈴木洋輔)は、超音波踵骨測定装置 FRS-100A 『LIAQUS(リアクス)ポータブル』(以下、LIAQUS ポータブル)をはじめとした製品を通じ、骨粗鬆症による一次骨折の予防への貢献を目指してまいりました。

急速な高齢化によって、日本経済のみならず社会に深刻な影響を及ぼす 2025 年問題が間近に迫っており、健康寿命の延伸が喫緊の課題となっています。2022 年国民生活基礎調査によると、日本では介護が必要になったきっかけとして「骨折・転倒」が 13.9%と 3 番目に多くなっています(右図)*1。骨折は、移動・食事・入浴など日常生活を送るために最低限必要な動作(ADL)への影響が大きく、そのまま寝たきりになるリスクもあります。また、骨の量が減ることで強度が弱まる骨粗鬆症により、さらに骨が折れる可能性が高まり、1 か所が骨折するとそれ以外の場所も連続して折れてしまう「ドミノ骨折」という症状も潜んでいます。



*1 厚生労働省「2022(令和4)年 国民生活基礎調査」の概況 統計表 p.36

10 月 20 日の世界骨粗鬆症デーを前に、国民の「骨粗鬆症」や「ドミノ骨折」の認識を明らかにするとともに、健康寿命と平均寿命の間にギャップを生む背景意識の実態調査を、全国 47 都道府県の各地域に居住する 10 代~60 代の男女、合計 1200 名を対象に実施しましたので、結果をお知らせいたします。

【調査結果のハイライト】

- ✓ 骨粗鬆症について「名前も症状も知っている」と回答した人が 61.5%、「名前は知っているが、どんな症状かは知らない」と回答した人は 27.5%となり、骨粗鬆症については一定程度認知されている。【図 1】
- ✓ 年代別に見ると、骨粗鬆症について「名前も症状も知っている」と回答した人は 10 代が 44.5%、20 代が 54.0%であったのに対し、50 代は 71.5%、60 代では 76.0%と 20~30 ポイントほど差がみられた。【図 2】
- ✓ また、骨粗鬆症について「名前や症状を知っている」と回答した人のうち、「ドミノ骨折について知っている」と回答した人は 24.6%にとどまり、骨粗鬆症とドミノ骨折に対する生活者の認知が乖離していた。【図 3】
- ✓ 骨粗鬆症の疾患に対するイメージは「骨がスカスカになる(86.6%)」が最も多く、次いで「骨折しやすくなる(81.6%)」、「高齢者に多い(69.8%)」といった回答が続いた。【図 4】

<本リリースに関するお問い合わせ先>

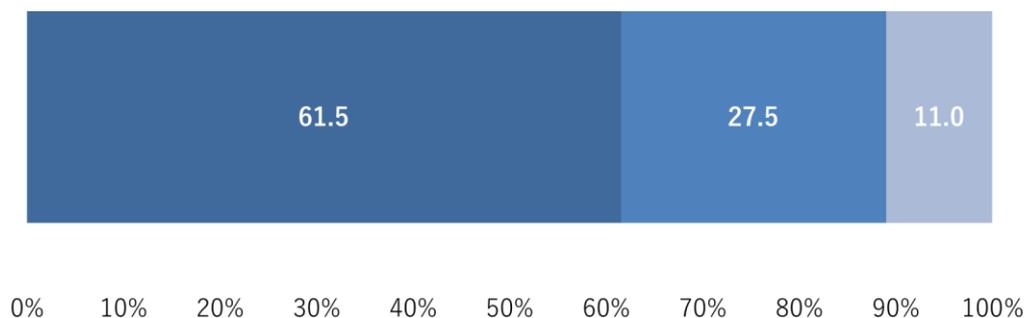
日本シグマックス株式会社 経営企画室 広報 緒方・峠

TEL:03-5326-3254 FAX:03-5326-3201 MAIL:kouhou@sigmax.co.jp (広報共有)

- ✓ 骨密度を調べたり、検査を受けたりすることができる機会や場所について知っているものを挙げる設問では「病院(60.3%)」と回答した人が最も多く、次点で「健康診断(27.9%)」、「健康センター(16.9%)」となった。なお、「知らない・分からない」と回答した人は 28.5%と 3 人に 1 人にのぼる。【図 5】
- ✓ 骨密度を調べたり、検査を受けたりすることができる機会や場所についていずれか知っているとは回答(図 5)した人のうち、実際に骨密度を調べたり、検査を受けたりしたことがある人は 28.9%にとどまる。機会や場所を知っていたとしても病院に行くことのハードルの高さから受診につながっていないことが要因のひとつとして考えられる。【図 6】
- ✓ これまで骨密度を調べたり、検査を受けたりしたことがない理由として「特に調べる必要性がないと思うから(24.9%)」や「面倒だから(18.7%)」、「自分は大丈夫だと思っているから(18.1%)」といった自分の問題と認識していない回答が上位を占めている。【図 7】
- ✓ 骨粗鬆症を予防するために有効な行動としては「運動(65.8%)」をはじめ日常生活に取り入れられるものが挙がる一方、「病院を受診する(22.3%)」や「骨粗鬆症の検査を受ける(39.1%)」など医療アクセスに関する行動への意識は低くなっている。また、「特にない・骨粗鬆症は予防できない」と回答した人は、10代で 16.5%、20代で 17.5%と 2 割に近い値であり、50代で 8.0%、60代でも 7.5%と 1 割に近い結果であった。【図 8】【図 9】
- ✓ 自身の骨密度や骨の状態に対する認識は、同世代の平均と比べ「非常にいいと思う」もしくは「少しはいいと思う」を回答した人はあわせて 24.9%となり、その理由として、「これまで骨折したことが無い(43.1%)」、ついで「普段から運動をしているから(36.3%)」が挙げられた。【図 10】【図 11】
- ✓ 一方で、「非常にいいと思う」、「少しはいいと思う」と回答した 40 代以上の男女 125 名のなかで、骨粗鬆症の可能性がある症状(身長が縮んだ、背骨が曲がってきた、仰向けで寝ると背中が痛い、転倒など些細なことで骨折した)を感じている人は「非常にいいと思う」で 13.9%、「少しはいいと思う」は 20.2%であることが分かった。【図 12】

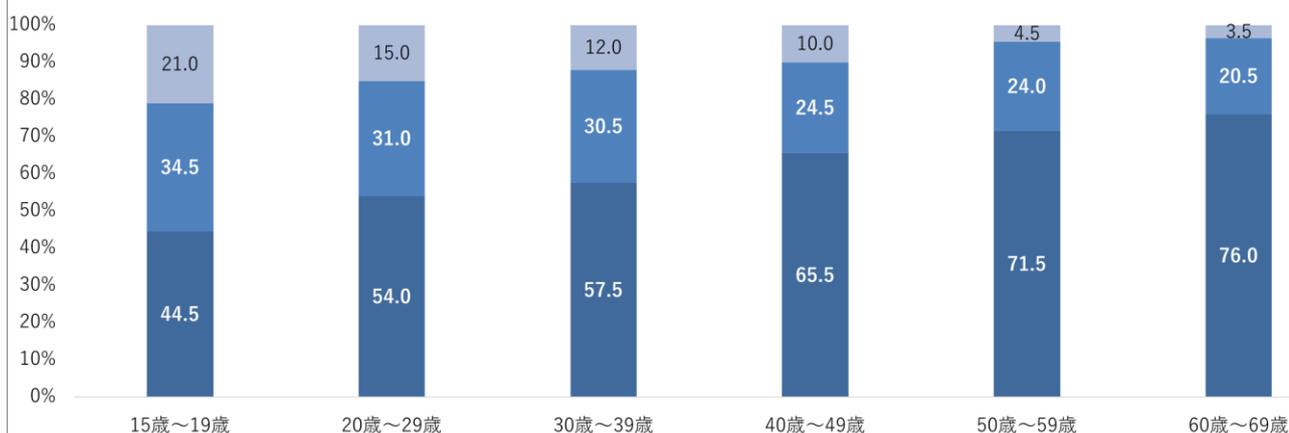
【図1】「骨粗鬆症」の認知度(n=1200/単位=%)

■ 名前もどんな症状かも知っている ■ 名前は知っているが、どんな症状かは知らない ■ 名前も症状も知らない



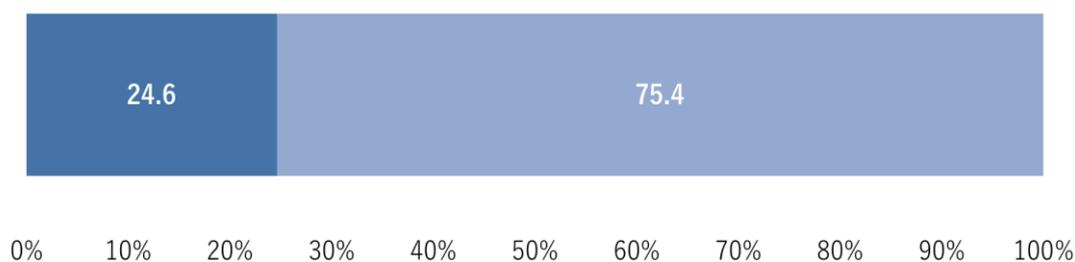
【図2】年代別「骨粗鬆症」の認知度(n=1200/単位=%)

■ 名前もどんな症状かも知っている ■ 名前は知っているが、どんな症状かは知らない ■ 名前も症状も知らない



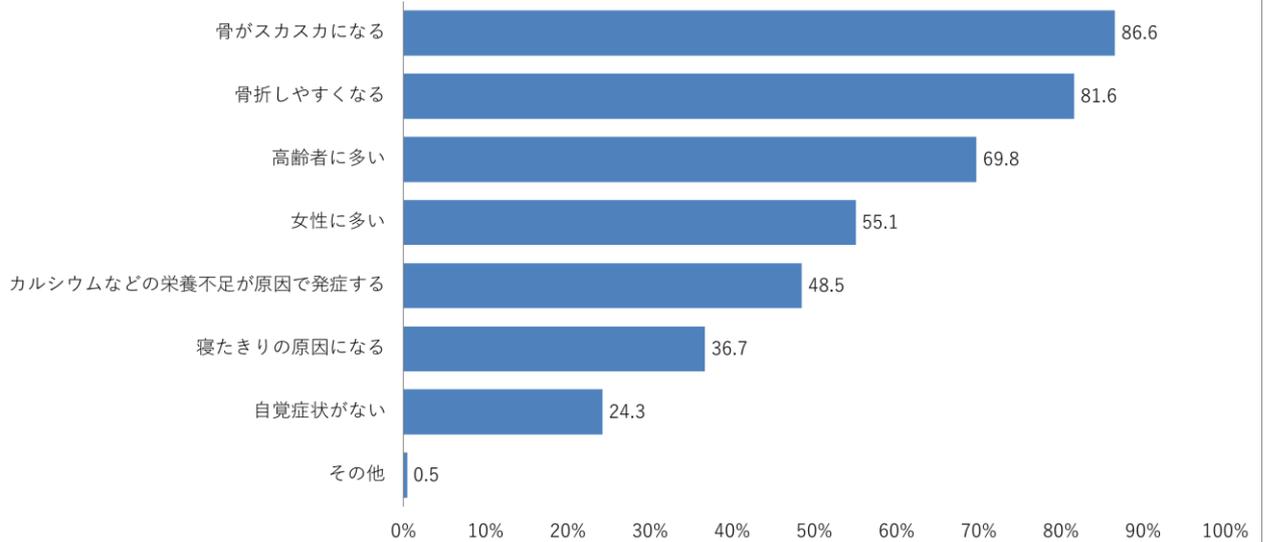
【図3】骨粗鬆症について名前や症状を「知っている」と回答した人のうち、骨粗鬆症が原因となって起こる「ドミノ骨折」についての認知度 (n=1068/単位=%)

■ 知っていた ■ 知らなかった



【図4】「骨粗鬆症」に対するイメージ（複数回答）

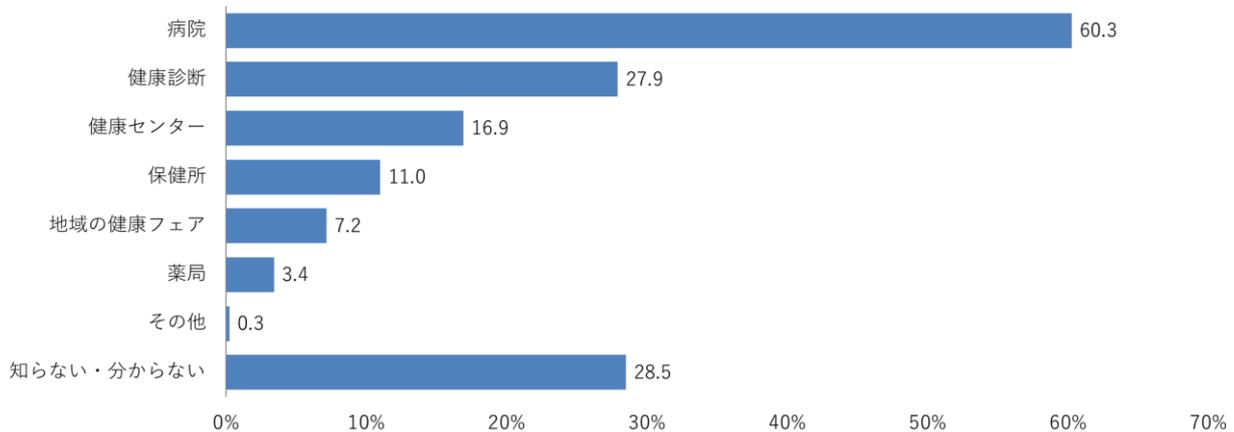
(n=1200/単位=%)



【図5】骨密度を調べたり、検査を受けたりすることができる機会や場所への認知度（複数回答）

※骨密度を測定する機器ではない体組成計などを用いた計測は除く

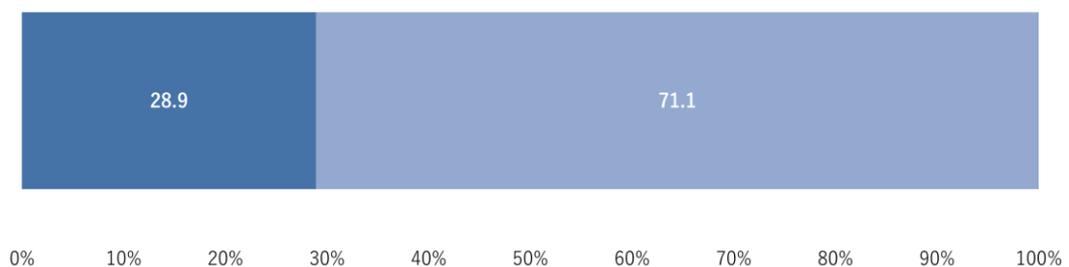
(n=1200/単位=%)



【図6】骨密度を調べたり、検査を受けたりすることができる機会や場所を認知している人のうち

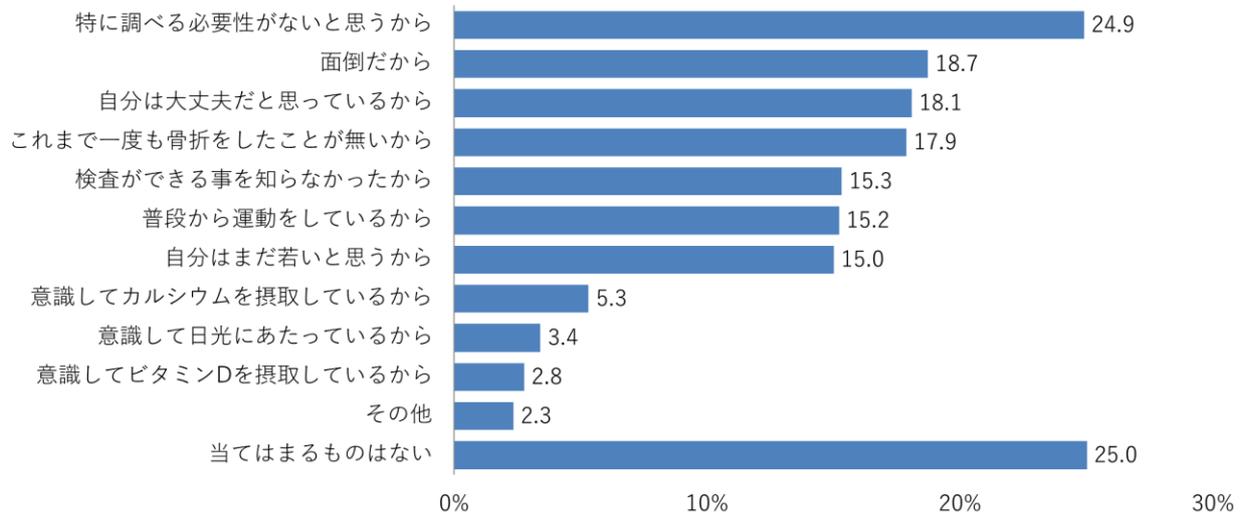
骨密度を調べたり、検査を受けたりした経験(n=858/単位=%)

■ ある ■ ない

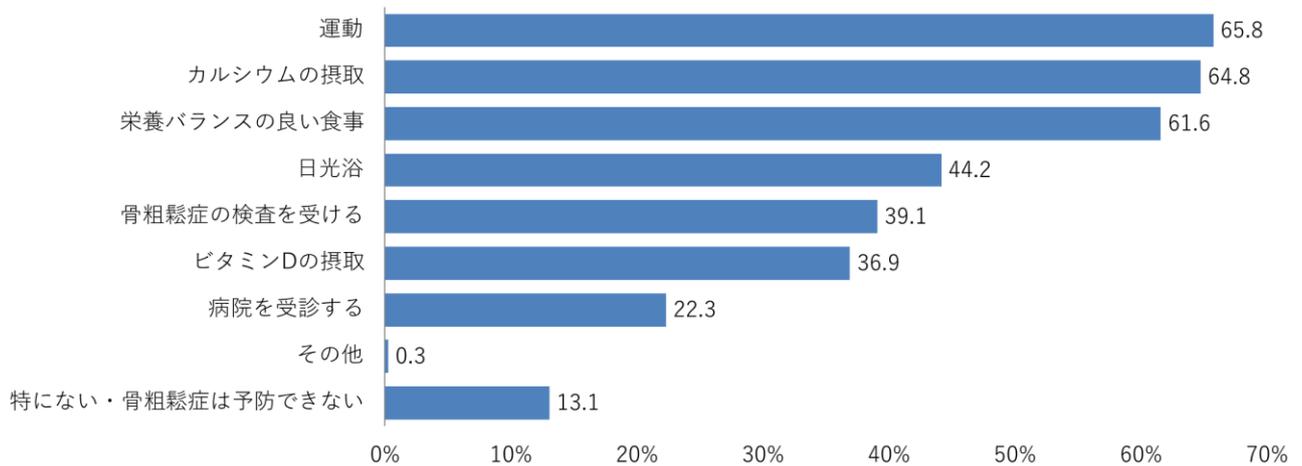


【図7】 「骨密度を調べたり検査を受けたことがない」理由

(n=939/単位=%)

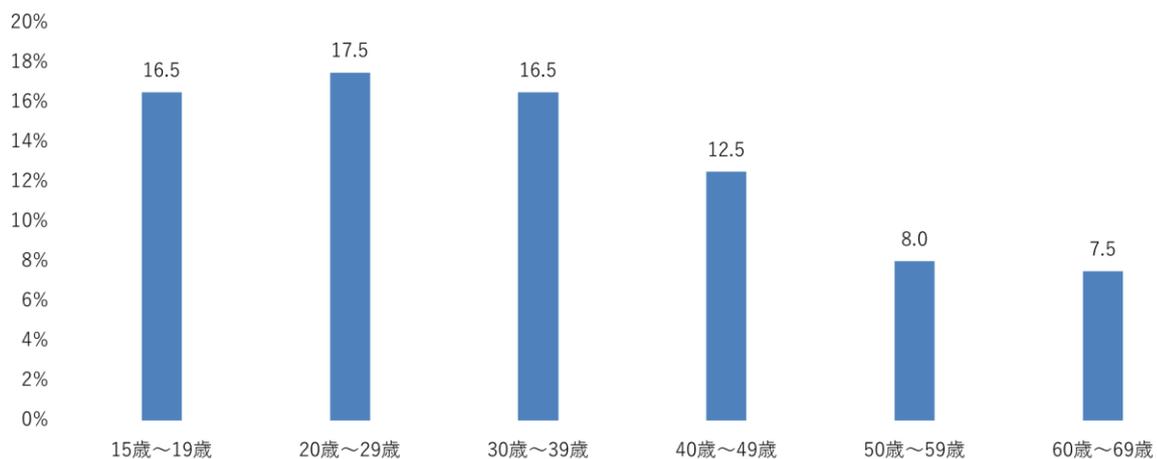


【図8】 骨粗鬆症を予防するのに有効な行動(n=1200/単位=%)



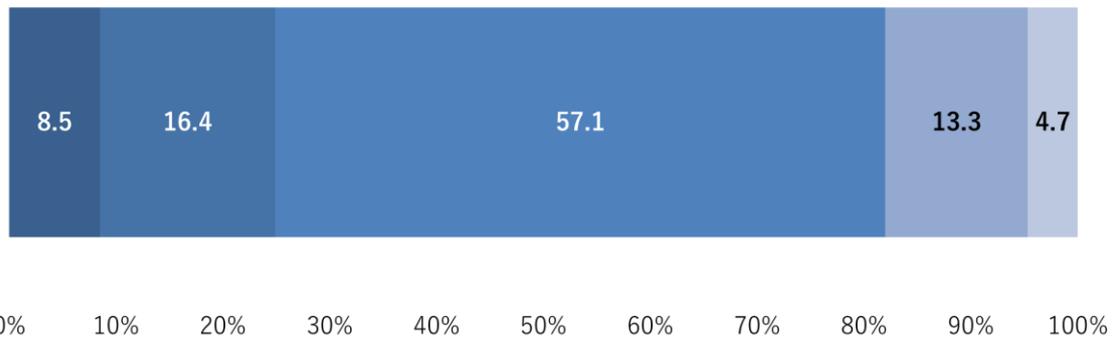
【図9】 骨密度を予防するために有効な行動として「特にない・骨粗鬆症は予防できない」と回答した割合

(n=157/単位=%)

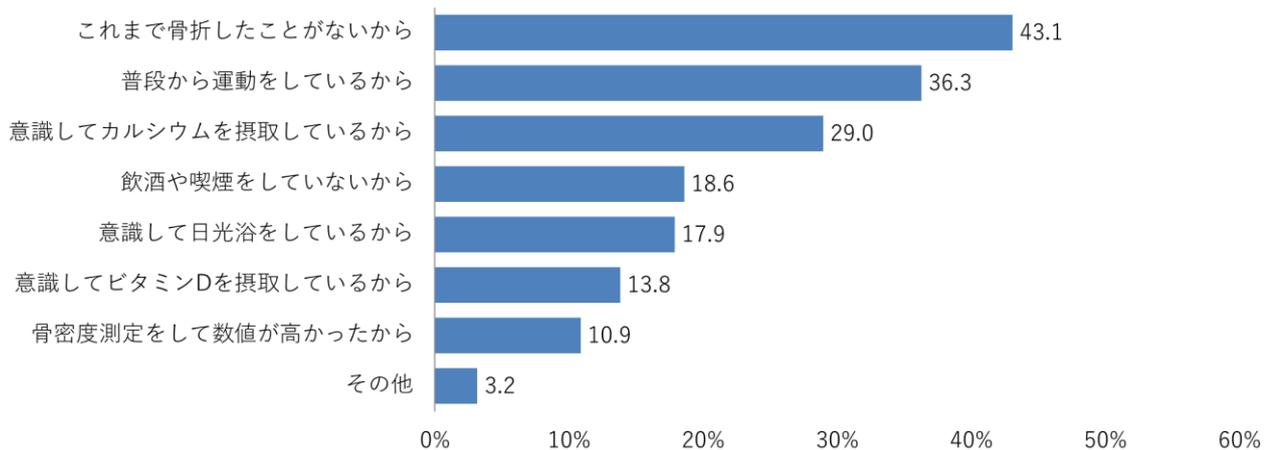


【図10】 ご自身の骨密度や骨の状態を同世代の平均値と比べた時の認識
(n=1200/単位=%)

■ 非常に良いと思う ■ 少しは良いと思う ■ 標準的だと思う ■ 少しは悪いと思う ■ 非常に悪いと思う

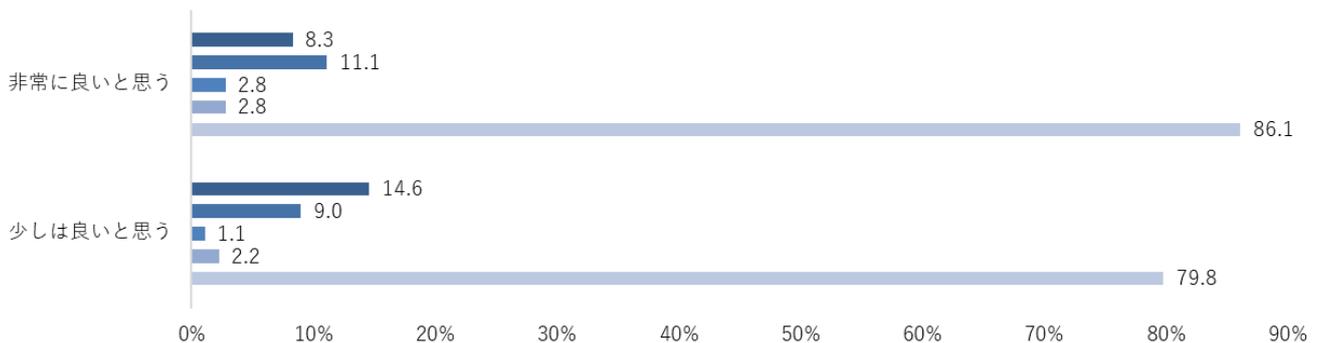


【図11】 自身の骨密度や骨の状態に関して同世代の平均と比べ
「同世代の平均値より良いと思う」「標準的だと思う」と回答した人の理由
(n=216/単位=%)



【図12】 自身の骨密度や骨の状態は、同世代の平均値と比べて「非常にいいと思う」、「少しはいいと思う」を回答した人のうち、自身のからだに骨粗鬆症の症状といわれる状態の有無
(n=125/単位=%)※40代以上の男女

■ 身長が縮んだ ■ 背骨が曲がってきた ■ 仰向けで寝ると背中が痛い ■ 転倒など些細なことで骨折した ■ 当てはまるものはない



【結果を受けて】

骨粗鬆症やその二次骨折である「ドミノ骨折」の予防には、その認知を広げ、リスクへの正しい理解を促すことで自身の健康について考えていただき、定期的な骨密度検査を実施していくことが大切です。

実際に国内では健康増進法という法律のもと骨粗鬆症検診が行われていますが、骨粗鬆症検診の対象者の受診率は 5.3%と低い*2 状況です。また、従来の超音波骨密度測定装置はおよそ 10kgと重く本体も大きいため、骨密度測定を受けるためには、「受診者が、装置が設置されている病院に行く」必要がありました。

骨粗鬆症検診や骨密度測定の受診率を向上するためには、検診・測定の受診に対するハードルを下げ、骨密度検診を身近なものにすることが重要になります。そのため、当社は 2024 年 6 月に、小型・軽量で容易に持ち運びができる LIAQUS ポータブルを発売いたしました。

当社は LIAQUS ポータブルを通して上記の受診率の向上に貢献し、運動器に関わる医療機器メーカーとして課題解決にむけた取り組みを加速させてまいります。

*2 公益財団法人 骨粗鬆症財団「検診者数 及び 各都道府県の検診受診率」2021 年

OLIAQUS ポータブルの開発エピソードは以下 URL よりご覧いただけます。

<https://prtimes.jp/story/detail/0bKoD4T0ZGb>

【調査概要】

調査名 骨粗鬆症およびドミノ骨折に関する意識と実態調査(2024 年)

調査対象 10 代~60 代の男女各 100 名、合計 1,200 名

調査方法 インターネット調査(楽天インサイトへの調査委託)

調査期間 2024 年 8 月 27 日~30 日

※その他詳細なデータについては、日本シグマックス株式会社経営企画室にお問い合わせください。

※本調査を引用する場合は「2024 年日本シグマックス調べ」もしくは「日本シグマックス株式会社『骨粗鬆症およびドミノ骨折に関する意識と実態調査(2024 年)』」と記載ください。

<本リリースに関するお問い合わせ先>

日本シグマックス株式会社 経営企画室 広報 緒方・峠

TEL:03-5326-3254 FAX:03-5326-3201 MAIL:kouhou@sigmax.co.jp (広報共有)

■日本シグマックス株式会社について <https://www.sigmax.co.jp/>

所在地:東京都新宿区西新宿 1-24-1

創業:1973 年 6 月 1 日

資本金:9,000 万円

代表取締役社長:鈴木 洋輔

社員数:241 名(2024 年 3 月末)

売上高:127.3 億円(2024 年 3 月期)



日本シグマックスは「身体活動支援業※」を事業ドメインとし、幅広いフィールドで人々の身体に関わる製品・サービスを提供しています。創業以来「医療」の中でも「整形外科分野」に特化して、各種関節用装具やギプスなどの外固定材、リハビリ関連製品、冷却療法のためのアイシングシステム、治療・診断のための医療機器など、特徴のある製品を提供してまいりました。「スポーツ分野」ではスポーツ向けケア・サポートブランド『ZAMST』を中心に国内外で高い評価を受けております。また日常生活を支える「デイリーケア」、労働者の身体をサポートする「ワーカーズケア」といった分野で『MEDI AID』ブランド製品を拡大展開しております。

※身体活動支援業:運動器障害の予防・診断・治療・回復、及び運動機能維持・向上を目的とした製品・サービスを提供することにより、人々がより健康で快適な生活を送れるよう支援する業(当社による造語)